

平成 29 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、本州付近は高気圧と低気圧が交互に通過し、旬の後半は冬型の気圧配置となりました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、旬の後半を中心に気温が低くなりましたが、低気圧の影響が小さかったため、西日本を中心に降水量が少なくなりました。沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、10 日は沖縄付近で前線の活動が活発となったため、八重山地方で大雨となりました。

中旬は、北日本から西日本にかけては、大陸からの高気圧に覆われて晴れた日が多く、北日本日本海側の旬間日照時間の平年比は 174% で、3 月中旬としては旬の統計を開始した 1961 年以降で 1975 年と並んで最も多くなりました。旬の中頃と旬の終わり頃は、気圧の谷や低気圧の影響を受け曇りの所が多く、雨の降った所もありましたが、本州付近では低気圧の影響が小さかったため、降水量は少なくなりました。一方、沖縄・奄美では、短い周期で低気圧や前線の影響を受けたため、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、日本の南海上を低気圧が数日の周期で通過し、低気圧の通過後は大陸からの冷涼な高気圧が本州付近を通過しました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、東・西日本、沖縄・奄美の気温は低くなりました。特に、25 日～27 日にかけては、本州の南海上を発達しながら低気圧が通過し、北からの強い寒気が流れ込んだため、東日本から沖縄・奄美にかけての広い範囲で天気が崩れ、関東甲信地方の山地を中心に大雪となった所がありました。

月平均気温は、西日本、沖縄・奄美で低かった一方、北日本では高く、東日本では平年並でした。月降水量は、東日本日本海側と西日本でかなり少なく、北日本、東日本太平洋側で少なく、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北・東・西日本で多く、沖縄・奄美では平年並でした。降雪の深さ月合計は、北日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なく、東日本日本海側では平年並でした。月最深積雪は、北日本で少ないところが多くなりました。

【3 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 1 ポイント高い 84% で、明後日予報は例年値より 1 ポイント高い 81% でした。各地方の適中率では、明日予報については、北海道、関東甲信、沖縄の各地方で例年値より 5～8 ポイント高くなった一方、九州北部地方では 8 ポイント低くなりました。明後日予報では、北海道、関東甲信、東海の各地方で例年値より 5～7 ポイント高くなった一方、九州北部地方では 9 ポイント低くなりました。それ以外の地方は、明日予報と明後日予報ともに、概ね例年と同様でした。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.3 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.3 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5 月の天気予報の利用にあたって】

5 月は、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりますが、一方で低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。

また、上空に寒気が流れ込むと大気の状態が不安定となり、穏やかな晴れの天気から一転して雷や突風、局地的な大雨となることもあります。屋外での活動を計画している場合は、天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えてください。